



浮遊



なら歴史芸術文化村

奈良ゆかりのアーティスト 交流プログラム

なら歴史芸術文化村(=文化村)では、さまざまなアーティストの交流プログラムを実施しています。

奈良ゆかりのアーティスト交流プログラムは、奈良出身、在住または、奈良を拠点に活動するアーティストを紹介します。奈良に関わりを持つアーティストの表現活動には奈良の魅力、問題点などアーティストが独自の視点から捉えた奈良が内在します。アーティストそれぞれが追及するテーマや提起する問題に触れることは、自分自身や社会などに対して、新たな気づきを得ることにつながるでしょう。

このプログラムは、作品展示、公開制作、ワークショップなど、アーティストとじかに出会い、交流することを通して、奈良を再発見するとともに、「もっと作品を観てみよう」「自分も創ってみよう」とアートを身近に感じ楽しむことを目的にします。

～時間の空間の境界を越えてみる～

Eimei Okuda & Floating Factory

2022年 8月9日|火| - 8月28日|日|

9:00-17:00 休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合は翌平日)

なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟

「浮遊」～時間の空間の境界を越えてみる～

Eimei Okuda & Floating Factory

世界遺産「平城宮跡」のある奈良市佐紀町でアート制作工房「浮遊ファクトリー」を運営する奥田エイメイを紹介します。

奥田エイメイの魅力の一つに、発想の面白さがあります。人工筋肉の研究者として対峙した素材を、アーティストとして美しい水中オブジェに生まれ変わらせ、DNA構造や進化の過程を当てはめ《生命のねつ造》としました。朽ちた水中オブジェは、ガラス板に貼り、墓標にして吊りました。ときには、二種類の水中オブジェを、「同じ生命体でありながら異なる二種類の進化の過程をもつもの」として展示し、不思議なパラレルワールドを表現しました。

今回のテーマである「浮遊」について奥田は「モノや自分が、今、存在している場所から、形を変えながらふわっと浮き上がって、そうして、自由になっていく感じ」と表現します。ふわっと浮き上がるような感覚は同時に、自分の存在を確かめることを必要にしました。奥田にとって、自分の存在を確かめることは、自分のはじまりと終わりについて、さらに、自分を育んだ地球や宇宙の誕生と終焉へと意識を広げることになります。

水中オブジェから宇宙へ、奥田ワールドを存分に堪能いただきたいと思います。

奥田エイメイ & 浮遊ファクトリー

1964年、大阪市出身。3歳頃から奈良市に移り住む。京都大学工学部を卒業後、電機メーカーに就職し人工筋肉の研究を手がける。その後、材料研究の経験を生かして水中を浮遊するオブジェ制作をはじめ。メーカー退職後は奈良市内に現代アートによる交流を目的とした〈Cafe & Bar in Gallery 浮遊代理店〉を立ち上げ、自身の制作活動と共に、多数のアーティストを招いて、展示・トークイベント・コンサート等を企画・実行してきた。現在は佐紀盾列古墳群の中ほど、平城宮跡に隣接する浮遊ファクトリーにて、周囲の環境からインスピレーションを受けつつ作品制作を行っている。主な作品に、《記憶のねつ造》《生命のねつ造》《双子を吊る》《光にして解き放つこと》《人工犬との対話》《私のコピーとの対話》《水中猫発生プロジェクト》《配管帝国》《宇宙の直径を聴く装置》《宇宙の終わりを視る装置》など。

浮遊ファクトリーは奈良市佐紀町に2000年4月より奥田エイメイが想芸館の制作工房として設立した。共同代表運営者は奈良市立二名中学校・奈良県立奈良高等学校の同級生奥田ナホ。





晴れた日は空を見あげたい
その姿が宇宙に記憶されるように

小学生だったわたしに 祖父が
望遠鏡を買ってくれた日のことを覚えている

わたしはその日から宇宙に目覚めたのだ
冬の寒い よく晴れた日だった

その日わたしは望遠鏡で見る星空をおもって
なんども澄んだ青空を見あげた

天体望遠鏡を買いに行った
五十年前の祖父とわたしの姿は 今も
五十光年先の宇宙を走り続けている

よく晴れた日は野原を歩きたい
そして空を見あげる
光の速度で宇宙の果てまで旅をする
わたしの姿を見送るために

わたしたちは宇宙の生まれた
百三十八億年前から
果てなく出会いと別れを繰り返し
そしてこれから先も
別れと出会いを繰り返していく

わたしたちが交わした言葉や笑顔は
一瞬の後に消えていく
それらは本当になくなってしまったのでしょうか
わたしはそうは思いません

小さな声や微かな姿は
わずかな温もりとなって
宇宙に記憶されていく
消えてしまったようでも
この宇宙の直径のなかに存在し続ける

一億年前も一万年も一千年前も
昨日も今日も
わたしたちはいつも
この体いっぱい
わたしたちが最初にたてた
百三十八億年前の心臓音を浴びている

奥田エイメイ
『光の速度で宇宙の果てまで旅をする わたしの姿を見送るための』

1. 20220503宇宙はカエルくんの唇とイカくんの頭を記憶する(映画『カエルくん消えた』より)



2. 宇宙に狼煙をあげる(映画『カエルくん消えた』より)



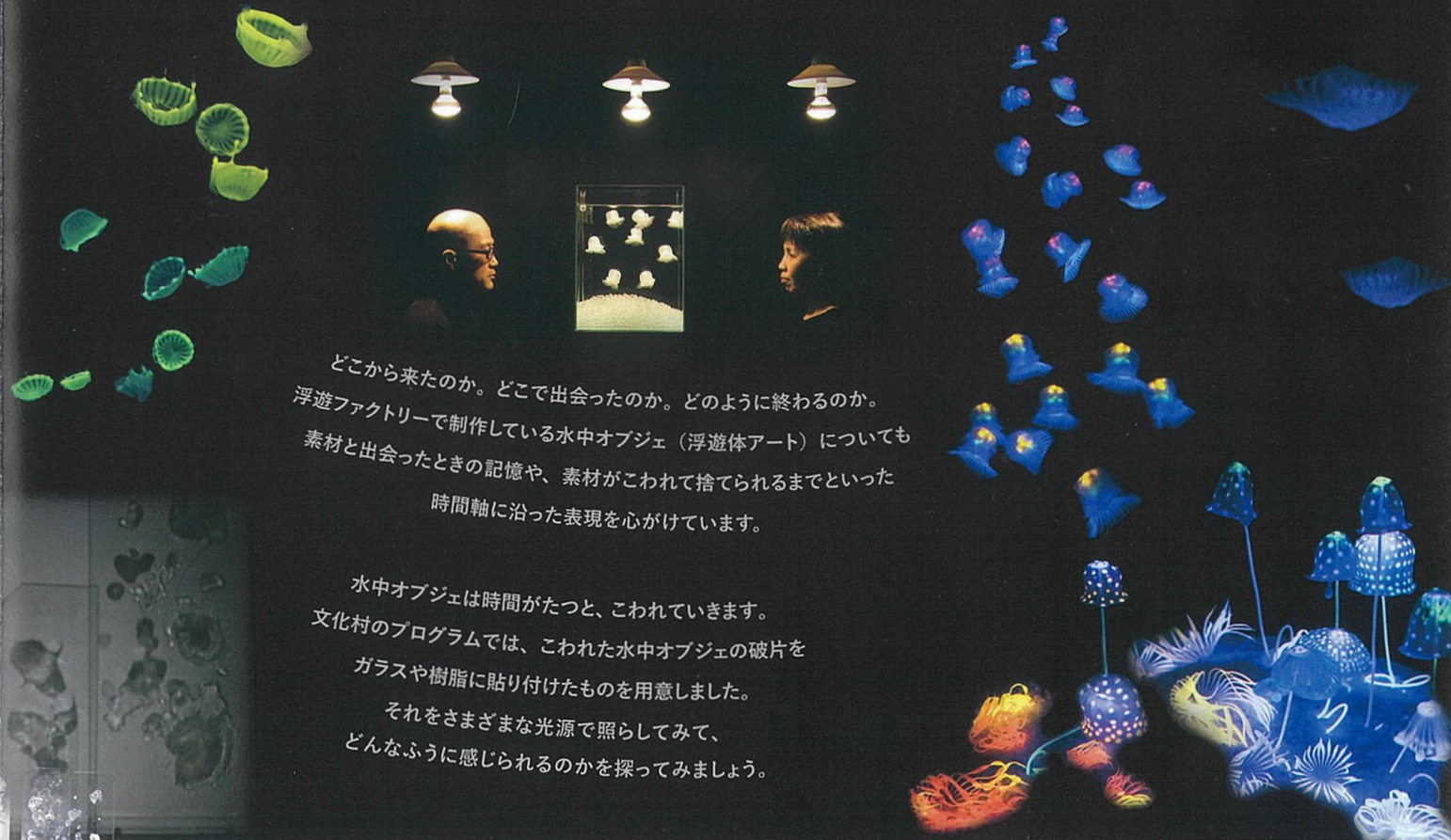
宇宙に狼煙をあげる

時間を空間を浮遊する

こんにちは。

7年前から「歩き屋」を名乗るようになりました。ひたすら歩いては
平城宮跡を歩くと発掘調査に出会うことがあります。
平城宮跡の空は素晴らしく広いのです。生駒山に夕陽が沈み、
足下の地中に遺跡があるなら、頭上の宇宙の地層にも百年前、千年前、無数の時代の
わたしたちを含む宇宙すべてのモノたちが極小の一点から発生した
ビッグバンエネルギー波は今も宇宙の全方向から、
古いFM受信機のノイズにはそのエネルギー波の名残が含まれているといえます。
それはわたしたちの最初の心臓音です。

わたしたちはいつも、わたしたち自身の最初の心臓音を浴びつつ、わたしたちの日々の姿を宇宙に放射しています。空の広い
奈良時代の馬に乗った人たちの姿は、ここから千三百光年先を走っています。空には
晴れた日に空を見上げれば、わたしたちのその姿は光の速度で宇宙の果へと旅をします。



どこから来たのか。どこで出会ったのか。どのように終わるのか。
浮遊ファクトリーで制作している水中オブジェ(浮遊体アート)についても
素材と出会ったときの記憶や、素材がこわれて捨てられるまでといった
時間軸に沿った表現を心がけています。

水中オブジェは時間がたつと、こわれていきます。
文化村のプログラムでは、こわれた水中オブジェの破片を
ガラスや樹脂に貼り付けたものを用意しました。
それをさまざまな光源で照らしてみ、
どんなふうに見えるのかを探ってみましょう。

3. 双子を吊る



奥田エイメイです。
 思いついたことを形にする日々を過ごしています。
 土を少しずつ掘り起こしています。ふと目を空に転じてみましょう。
 スコップを持った人たちが帰るころ、望遠鏡をかついだ人がやってくる。
 遠い世界の姿が埋まっています。そのずっと奥の地層はどうなっているのでしょうか。
 百三十八億年前の最古の地層、ビッグバンに行きつきます。
 わたしたちに降り注いでいます。
 ザーという、その音を聞いてみましょう。
 自分の身体の境界が時間軸を浮遊して宇宙に広がっていく感じがしませんか。
 平城宮跡を歩きながら、今、自分の姿が宇宙に放たれたことを感じてみる。
 宇宙に向けて刻々と光の記憶が地層となって積み重なっていく。
 広い空に向けて、あなたは宇宙にどんな姿を送りますか？

平城宮跡にて
 宇宙の遺跡を聴く



8. 宇宙の直径を聴く装置 あるいは わたしたちの最初の鼓動のための聴診器

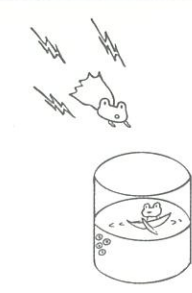


水中オブジェのモデル作りには紙を使います。
 その余り紙を使った作品制作もはじめました。
 そういえば紙はどのように作られるのでしょうか。
 パルプから？ もともとは木から？
 文化村に水中オブジェと紙の試作品を持ってきました。
 これらの試作品の置かれた時間軸の向こう側に木があるとすれば
 それはどんな形をして、どんな空間に伸びているでしょうか。
 文化村で木に詳しい方と出会ってみたいと思っています。

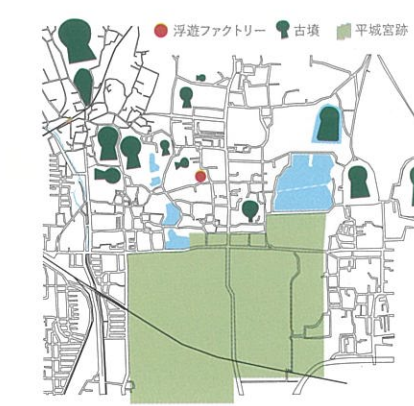
4. 生命のねつ造

5. 紙カンブリア紀

いまわたしたちは
 どこにピラミッドを建てるのか



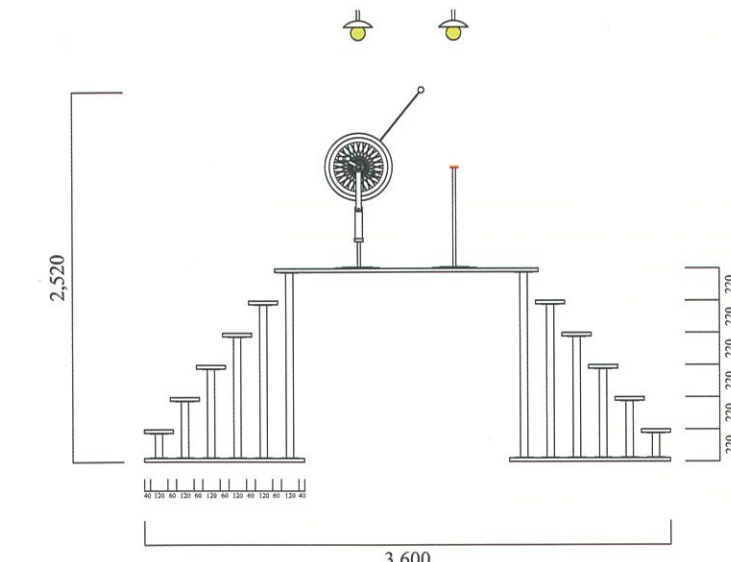
浮遊ファクトリーは佐紀盾列古墳群の中ほどにあります。巨大な古墳は当時の最先端の技術による千数百年前のピラミッドではないでしょうか。では現代のピラミッドはどこにあるのでしょうか。わたしたちの時代には、宇宙の始まりを実験的に観測しようと試みるための、あるいは宇宙の寿命を測定しようと試みるための、一昔前の人類にとってはおそらく想像を絶するであろう巨大で精密なピラミッドとも呼べる装置が存在します。宇宙はどのように始まりそして終わるのか。わたしたちはどこから来てどこへ行くのか。そしてわたしたちは今どこにいるのか。自分の位置を見失うほど科学が爆速で進化する時代にわたしたちは生きています。



いま、わたしたちはどこにどのようなピラミッドを建てているのでしょうか。浮遊ファクトリーでは、身近な材料で、近年の科学の姿を等身大で感じるための作品の制作に取り組んでいます。
 浮遊ファクトリーに転がっている作品の素材を文化村に持ってきて台の上に並べてみました。さて何をどのように組み合わせれば、わたしたちの時代の座標を少しでも感じることができるでしょうか。

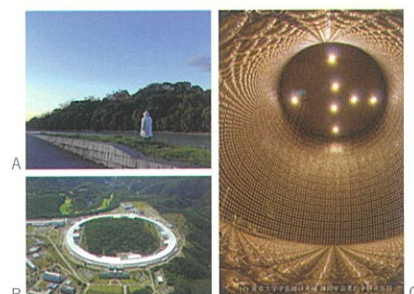


6

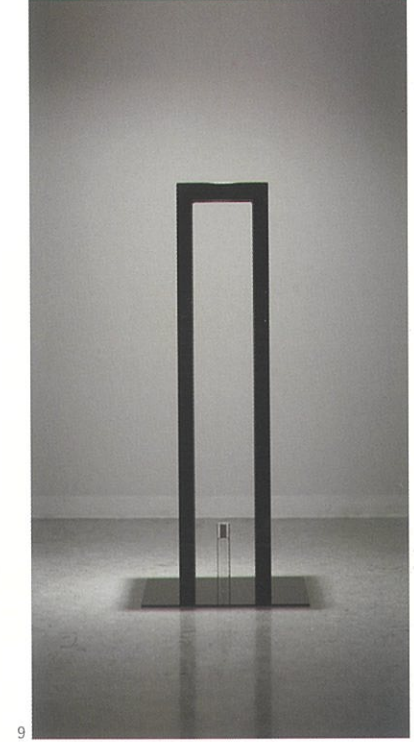


7

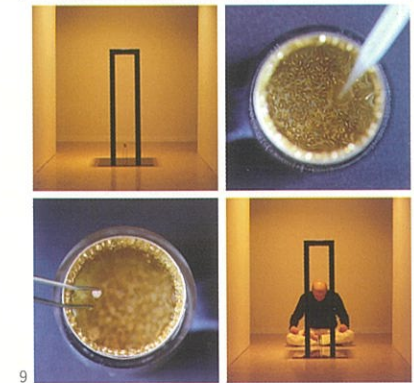
- 6. これはビッグバン時代の宇宙の絵だ... 平城宮跡編
- 7. ベビユニバースの作り方
- 8. 宇宙の直径を聴く装置 あるいは わたしたちの最初の鼓動のための聴診器
- 9. 宇宙の終わりを視る装置 あるいは 仄かに青白く走る光の円錐を20×10の9乗年以上待つための瞑想器
- A. コナベ古墳 B. 大型放射光施設 SPring-8 (写真提供: 理化学研究所)
- C. スーパーカミオカンデ (写真提供: 東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設)
- 映画『カエルくん消えた』(監督・撮影・編集/奥田しゅんじ 制作/浮遊ファクトリー)



8



9



9



奈良ゆかりのアーティスト交流プログラムでは、アーティストが追求するテーマに沿って、来訪者が多様な視点から気軽にアプローチできる取り組みを行っています。奥田エイメイ&浮遊ファクトリーのプログラムでは、文化村に制作途中の試作品や素材を持ち込んでいます。これからどんな作品になっていくのか、ぜひ、想像してみてください。そしてアーティストに話しかけてみてください。アーティスト自身がまだ気づいていない新しい視点を与えることになるかもしれません。また、あなた自身が「自分もできそうだな」となにかを創り始めるきっかけになるかもしれません。

お申し込みはこちら▶

<https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/event>



1 展示-状態を並べる はじまりと終わり今とこれから

水中オブジェの誕生から終わり、宇宙のはじまりと終わりをテーマに試作途中の状態を展示します。

- 日時/8月9日(火)~8月28日(日) ※月曜休館 9:00~17:00
- 場所/芸術文化体験棟3階 ●申込/不要(無料)



2 試作検討会 ここからを語る

浮遊ファクトリーで実験・検討中の作品があります。ここからどのように創るかアーティストと語り合しましょう。

1 浮遊体験から

古いテレビ、ラジオ、管、本などがあります。まずはラジオのスイッチを入れて宇宙が生まれた音(ビッグバン)を聴いてみましょう。自分の身体の境界が時間軸を浮遊して宇宙に広がっていくことを感じてみましょう。

2 起源に思いを寄せる

水中オブジェとその模型である紙の試作品があります。紙の起源に思いを巡らせましょう。材料のパルプはどうやって作るのか。木の屑?吉野杉は?

3 光の埋葬

バラバラの水中オブジェとそのお墓が置かれています。水中オブジェの終わりを看取ります。バラバラになった水中オブジェを様々な光で照らしてみましょう。

- 日時/会期中毎週火曜
- 1 11:00~12:00 2 13:00~14:00 3 15:00~16:00
- 場所/芸術文化体験棟3階 交流ラウンジに集合
- 定員/約8名(先着順) ●申込/当日申込(無料)



3 ワークショップ 宇宙の地層に何を埋めますか

「宇宙に狼煙をあげる」

星の光は長い時を経て地球に届きます。私たちが見ている星の輝きは過去に発せられた光です。今、私たちが宇宙に向けて光を発したら、私たちがいなくなった後もずっと宇宙を走り続けます。消えてしまいそうなものを宇宙に残しません。

まず、目の前の人に今日、あなたが朝から見たものを話してみてください。それから外に出てみましょう。今日、宇宙の地層に何かを残しに行きましょう。

- 日時/8月20日(土) 13:00~15:00
- 会場/芸術文化体験棟3階 セミナールームABほか
- 定員/6名(先着順) ●申込/WEBから(無料)



4 トークイベント アーティストが今一番伝えたいこと

1 「今わたしたちは、どこにピラミッドを作るのか」

奈良に次の世界遺産〈現代のピラミッド〉の種はあるのか

科学の進歩に加え、常に新しいものがめまぐるしく開発され、技術革新が行われ続けている現代。そのような時代に生きる私たちは、もしかしたら「浮遊」状態なのかもしれません。

奥田が考える〈現代のピラミッド〉とは?

研究者からアーティストへ転向した奥田ならではの視点です。



2 「空の地層から聞こえてくるもの、空の地層に残していく記憶」

奥田にとっての真のテーマは、「自分が大切だと思ったことを、納得するまで追求すること」。奥田式人生の楽しみ方、人生とのつきあい方にふれた瞬間から、私たちそれぞれの人生も変わるかもしれません。

- 日時/1 8月14日(日) 13:00~14:30 2 8月21日(日) 13:00~14:30
- 場所/芸術文化体験棟3階 セミナールームAB
- 定員/20名(先着順) ●申込/WEBから(無料)

5 奥田エイメイの今を観る 思考から表現へ

アーティストが構想、制作している様子を公開します。何かを考えているかもしれません。創っているかもしれません。でも気軽に声をかけてみてください。

- 日時/会期中毎週火曜 9:00~11:00
- 場所/芸術文化体験棟3階
- 申込/不要(無料)



奈良ゆかりのアーティスト
交流プログラム vol.3のご案内

「(仮称)東乗鞍プロジェクト」三橋 玄
2022年9月4日(日)~

奈良県桜井市在住のアーティスト三橋 玄(みつはしげん)を招きます。世界各地を旅し、人と自然との調和と共生をテーマに創作活動を続けています。2005年からは、竹に注目。その特性を活かし空間にダイナミックかつ繊細に造形する作品を制作しています。今回は、文化村に隣接する東乗鞍古墳から切り出した竹を使い、地域の歴史をイメージした作品を制作する予定です。



なら歴史芸術文化村

所在地 〒632-0032 奈良県天理市杣之内町 437-3

アクセス ※JR・近鉄天理駅より直行バス、
直行デマンドシャトル運行(有料)
※奈良交通バス「勾田」下車徒歩15分

開館時間 9:00~17:00 休館日/月曜(祝日の場合は翌平日が休館)

※レストラン・貸館は9:00~20:00
にぎわい市場・伝統工芸館は9:00~18:00
※レストラン、にぎわい市場、伝統工芸館は月曜日も営業
※情報発信棟トイレを除き、12月28日~翌年1月4日は休館

問合せ TEL 0743-86-4420(代表)
<https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/>

主催: なら歴史芸術文化村
助成: 令和4年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



文化庁

